

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。

第67回 新しい部下を迎えるとき

上司として新しい部下を迎えたら、自分と部下との関係はもちろん、もともといる部下との関係も配慮し、早く溶け込めるような環境をつくりましょう。

二つの人間関係に配慮
自分と部下・部下同士

自分の部署に新しい部下がやってくる。しばらく上司として働いていれば、必ず起こる出来事です。さあ、ここで考えなければならぬのは、二つの人間関係です。まずは、上司である自分と新しい部下とのコミュニケーション、そしてもう一つは、もともと部内にいる部下たちと新人とのコミュニケーションです。



上司と部下の人間関係を深めるといふ点においては、やはり最初は個人面談が有効だと思います。話をすることで関係が構築されますし、部下本人の口から

これまでの仕事について話を聞くことができるからです。そこから、どんな経験があるのか、どんな点に優れているのかなどを把握することもできるでしょう。

次に部下同士の人間関係。部下同士の間には、当然部下それぞれの裁量に任せる部分もありますが、やはり上司としては、新人が少しでも早く部内に溶け込める工夫をしてあげたいものです。

例えば、もともといる部下の一人場合によっては数人）を呼んで、「今度来た〇〇は、君たちにも影響を及ぼす仕事をするから、いいコミュニケーションを取れるようにしておいてほし



嶋津良智 著 リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

いと根回しをしておくのです。場合によっては、「近いうちに飲み会でも誘ってやつてくれよ」とけしかけることもあります。

「儀式」で溶け込む
楽しんで迎える

また、部内で新人恒例の儀式を用意しておくというのも、一つの手です。新人は必ず3日連続で朝礼担当をやらなければならぬと決めておけば、新人も、不慣れであってもみんなの前で話す機会が持てます。3日目を迎えるころには、だいたい慣れてきて、「これで立派に部の一員だ」という雰囲気自然而然に演出でき

るでしょう。

大リーグでも新人が入ると、チームメイトらが口ツカりに置いてある着替え一式をコスプレ衣装にすり替えておいて、その日は新人をコスプレで帰宅させるという儀式があるそうです。

ここまで手が込んでいなくても、何かしらの儀式があると、部門の全員が楽しみながら、新しいメンバーを迎え入れるという環境をつくることができます。ちょっとしたことです。そんな工夫をするだけで、新人は早く部内に溶け込めるものです。
(『上司のルール』より転載)